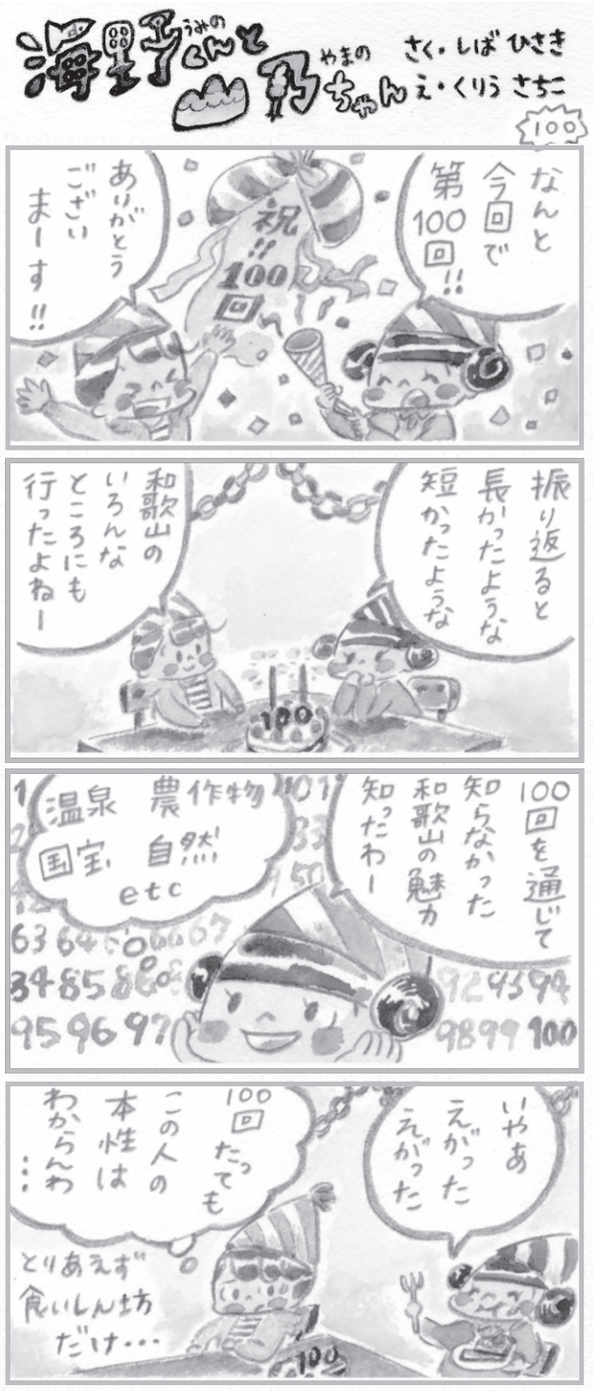
隔週金曜掲載

和歌山を創る新聞 わかつく

Vol.100
2014.10.31

特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355
E-mail info@wnc.jp　URL http://www.wnc.jp/
編集　志場 久起

花王 ハートポケット倶楽部
和歌山地域貢献活動応援基金
“わかやまいきいきファンド”
助成団体募集中！
◆**スタートアップ支援事業（5 万円 ×4 団体）**
活動を開始して 2 年以内の団体対象
◆**パワーアップ支援事業（10 万円 ×3 団体）**
活動を開始して 2 年以上が経過した団体対象
◆締切　2014 年 11 月 17 日（月）消印有効
◆詳しくは　http://www.wnc.jp/　から



地元力財団

あなたの「ほっとけない」が見つかる これからの社会貢献 100

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょうか。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ（分野）を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

何が課題？数字でみる和歌山県　Theme7　子育て－学力テストと子どもの生活環境 (2)

前回の紙面では、統計データを基に「子どもの生活環境」を取上げました。今回は子どもの支援の現場からインタビューをお届けします。子どもに関するあらゆる相談に対応している「和歌山県子ども・女性・障害者相談センター」の堀寿恭所長と子ども相談課の清山課長にお話を伺いました。

Q・こちらではどのような業務をされていますか？

和歌山県では中央児童相談所、紀南児童相談所、紀南児童相談所新宮分室の3ヶ所で0才～18才の子どもに関する相談に応じています。相談の種類は養護相談、保健相談、障害相談、非行相談、育成相談、その他の相談の大きく6つに分かれています。それぞれの相談に対し、社会面、心理面、行動面などいろいろな角度からスタッフがチームを組んで子どもの問題解決に取組んでいます。

平成25年度の相談件数は2942件で、そのうち養護相談は940件、保健相談は0件、障害相談は1262件、非行相談は234件、育成相談は469件、その他の相談は37件でした。

近隣の子どもが親から暴力を受けていた、とか、虐待を受けている疑いのある生徒がいる、といった学校からの相談など児童虐待に関する相談が増加傾向にあり、平成17年度に受けた相談件数は289件でしたが、平成25年度は793件と大幅に増加しました。

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター（ウェブサイトより）

Q・虐待に関する相談件数が増えている原因について教えてください。

「児童虐待防止法」という法律が平成16年に改正され、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに福祉事務所・児童相談所に通告しなければならない、という義務が明記されました。このことから相談件数が増えているということが考えられますが、それだけでなく虐待を受けている子ども も増えていると思われます。

核家族化、近所付き合いの不足というライフスタイルの変化によって、子育てをしている母親が地域で孤立してしまうことが虐待の原因のひとつだと考えられます。

また時代とともに「しつけ」が変化してきていると感じます。旧来の暴力を伴ったしつけは、子どもの成長過程において良い影響を与えないことは理解していても、つい暴力に頼ったしつけをしてしまい悩んでいる親も少なくはありません。虐待を未然に防ぐために、こうした親に対する子育ての支援制度などもありますので、悩んでおられたら、ぜひご相談頂きたいです。

◆　◆　◆

「和歌山県子ども・女性・障害者相談センター」では、相談件数が年々増加している児童虐待問題への対応に対しては、里親の登録数の増加や専門家との連携など、相談を受けた後の対応策が充実してきているようです。

お話のなかであった、「母親が地域で孤立している」ことが虐待の原因のひとつであるとすれば、虐待を未然に防ぐために私たちにもできることがあるのではないでしょうか。

例えば、子育てをしている母親をこれまで継続的に支援している団体を応援することによって、地域で孤立する母親をひとりでも少なくすることが期待できます。また、子どもの悩みに耳を傾ける「チャイルドラインわかやま」をはじめとした民間の相談電話活動を応援することでも、虐待に苦しむ子どもを救うことができます。

地元力財団が設置する「わかやま子ども未来基金」は、「子育てをしている母親」と「悩みを抱える子ども」の両面の課題解決に取組む団体を支援し、子どもたちの良い生活環境の実現を目指しています。「わかやま子ども未来基金」に市民のみなさまからご寄付をしていただくことで、子どもたちの生活環境をより良くしていくことができます。

行政による支援とあわせて、子どもたちをサポートする民間団体を応援し、子どもの生活環境をより良くしていくことが、和歌山のこれからの未来に必要なことではないでしょうか。

わかやま
子ども未来基金

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター
〒641-0014　和歌山市毛見 1437-218
相談電話　073-445-0793
URL　http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040402/gaiyo.htm

TOPICS

地元力財団では「地元に対する想いを寄付に託す」という新しい寄付の “カタチ” を提案しています。寄付はもちろん、明日からできる「あなたらしい」社会貢献のカタチを紙面で紹介しています。

当財団では「社会貢献支援相談窓口」を開設し、個人や団体、企業のみなさまの地元に対する想いをカタチにしていくお手伝いをしたいと考えています。

また、昨今の社会貢献意識の高まりを受け、遺産を地元のために活かしてほしいという声やニーズはますます高まってきています。地元の課題が多種多様になるなか、それらの声に応える新しい仕組みが求められています。

公益財団法人わかやま地元力応援基金では、「遺産を地元のために提供したい、寄付したい、活用してほしい」という想いと、大切な遺産を地元の市民公益活動団体へとつなぎ、活用していくための相談を受け付けています。

■ お問い合わせ先
公益財団法人わかやま地元力応援基金
「これ からの社会貢献 100」係（担当 : 酒井）
〒640-8331　和歌山市美園町 5-6-12
TEL　073-428-0011　FAX　073-428-0012
E-mail　info@jimotofund.jp

【お詫び】
前号の「わかつく」記事内の写真の説明で「中貴志小学校でのデビューの様子」と記載しておりましたが「中貴志保育所でのデビューの様子」の誤りでした。
関係者のみなさまに深くお詫び申し上げます。

和歌山を創る新聞「わかつく」は 100 号を迎えました

わかやま新報隔週金曜日に掲載している、NPO 紙面「和歌山を創る新聞・わかつく」は今回で 100 回を迎えることができました。開始から丸 4 年にわたって継続することができたのは、和歌山新報社のご厚意のみならず、和歌山で地域をよくしようと様々な分野で活躍されている NPO・ボランティア団体をはじめとしたみなさまのおかげです。心から感謝申し上げます。

この「わかつく」のように地域の NPO 自身が、地域の NPO の活動をを広く取り上げる連載コーナーを有する日刊新聞は「わかつく」が国内 2 例めといわれています。地域に密着した新聞だからこそできる取り組みとして、今後もできる限り紙面を継続していきたいと考えています。

この紙面を通じて、日頃はあまり目にしたり耳にしたりすることが少ないかもしれない「地域の課題」や、課題に向き合って日々奮闘されている団体や人々を少しでも多くの方に知っていただけるものと思われます。それが地域の NPO やボランティア団体へのさらなる参画やご支援につながり、ひいては、和歌山県内の NPO・ボランティア活動の活性化につながることを目指して、毎回紙面を製作させていただいています。

急速な少子高齢化、人口減少、防災対策など、和歌山はいっけん、課題ばかりかもしれませんが、豊かな自然、豊富な農産物・海産物、そして地域の暖かいつながりなど、今後の NPO やボランティア団体の活動の活性化に必要な資源はたくさん眠っていると確信しています。

行政、企業、そして NPO やボランティア・地縁団体などのいわゆる「市民セクター」の 3 つが、どれかに依存するのではなく、各々が自立しつつ相互に支え合う、豊かな社会づくりをめざして、今後も活動を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、2013 年 4 月の第 61 号からのバックナンバーをわかやま NPO センターウェブサイトにて PDF 形式で公開しています。
URL は http://www.wnc.jp/wakatsuku/ です。
また、この「和歌山を創る新聞・わかつく」を応援下さる「広告サポーター」も募集しています。くわしくは、わかやま NPO センターまでお問い合わせ下さい（電話 073-424-2223、電子メール info@wnc.jp）。折り返し担当者からご連絡させていただきます。

みんなでつくる情報板
わかやまイベントボード

●まち歩きツアー「てくてく建築沿 vol.2」
和歌山市中心部の街並みを違った視点で眺めませんか。
日時　11 月 1 日（土）
10:15 ～ 12:00
集合・解散場所　Wajima 本町ビル 1 階
講師　倉方俊輔さん（建築史家）
参加費　1000 円（資料代・保険代含む）
定員　15 名（申込み必要）
問い合わせ・申込み　株式会社 sasquatch （電子メール ssqtch@ssqtch.jp または Facebook で）

●不動産オーナーのためのリノベーション講座
「リノベーションまちづくり」で不動産オーナーが果たさなければいけない役割を考えます。
日時　11 月 2 日（日）
11:00 ～ 12:30
場所　Wajima 本町ビル 1 階
参加費　無料（申込み不要）
問い合わせ　リノベーションわかやま（電子メール renov@shimin.or.jp）
備考　ウェブサイトもご覧下さい（http://renov.shimin.or.jp/ または https://www.facebook.com/renovationwakayama/）

●災害と女性～大震災から 3 年被災地で生きる女性たちの今
被災はそこで生きる「女性たち」に何をもたらしたのか？現場からの報告です。
日時　11 月 9 日（日）
13:30 ～ 16:00
場所　県立情報交流センター Big-U 研修室 1
講師　田端八重子さん（もりおか女性センター長）
参加費　無料（事前申込み必要）
問い合わせ・申込み　田辺市男女共同参画センター（0739-26-4936・FAX 0739-24-8323・メール danjo@city.tanabe.lg.jp）

●0 歳からのジャズコンサート
赤ちゃんから大人まで楽しめる本格ジャズです。
日時　11 月 11 日（火）11:00 ～、13:00 ～、15:00 ～（各 60 分）
場所　和歌山市民会館・市民ホール
出演　クニ三上さん（ピアノ）、林正男さん（ベース）ほか
入場料　中学生以上 1,000 円、小学生以下 500 円（当日はそれぞれ 200 円増し）
チケット取り扱い　和歌山市民会館、アートキューブ、和歌山市内各コミュニティセンター

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC 版　http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版　http://eventboard.shiminjuku.jp/m/